

# 水源禪師法話集 18

(2013年2月11日 東京法話会)

2014年9月26日

一乗会



## 目次

---

水源禪師法話	1
南・東南アジアでの護摩焚き	1
ピラミッドと数字	4
法を持つこと	5
護摩焚きの行	6
パオでのニミッタ	7
三十七仏と護摩行	7
ニミッタの本当の力	8
南伝と北伝の二大巨頭からの認可	12
質疑応答	14
肉食はどうか	14
分かったふりをする恐ろしさ	15
迷いの心と修行の方法	17
次の世で仏教に出会うには	18
数字の不思議	19
底知れぬ仏教	20
身心一如	23
悪を善に転ずるダンマの力	24
法を求める大切さ	24
ボロブドゥールは世界最大の密教の聖地	26
花の殺生	27
社会の風と家族の関係	27
ヴィパッサナーの極意	30
すべてがサティ	31
密教の密教たる所以	31
心の進化のため無理しない座り方で	32
呼吸法と観法	34
行が進んだ師のオーラ	34

## 水源禪師法話

---

### 南・東南アジアでの護摩焚き

---

今回この行をやってすごかったですよ。特に、最後のスリランカのスリーパーダ<sup>1</sup>の山の頂上で普通させてくれないと思います。ちゃんと5時間、座ってさせてくれました。やはり最後には太陽と月が同時に空中に上がりました。そして、今は普通、見せないお釈迦様の実際の足跡を見せてもらって（昔は見せたのでしょうが）「洗いに来てください」と、私が奉行させていただきました、ということになりますね。つまりね、仏光山。仏の光と月と太陽、これ三つがスリーパーダ、2243メートルの仏光になりました。普通は大体山の上では曇って見えないのです。その麓に日蓮宗系の日本山妙本寺というのがあるのかな。そのお坊さんが35年間、毎日トントコトントコ上がって1回だけ見たって。私が行ってその行をやったら、西がいつでもぼっかり青空、ここだけ最後に全空の雲を払って見せるわけです。あり得ないことだって。特にすごかったのは、満月でしょう！？それで「仏の足を洗いに来なさい」と呼ばれて、サーッと洗ってきて。何か奇跡の連続でしたね、今回は。

まずね、ボロブドゥール<sup>2</sup>の世界遺産ですよ！普通は公園内でまずやらせてくれないのです。最高の場所を用意されていて、ちゃんとポリスカーも付けられてサーッと丘の上へ上がって行って、私も何がなんだか分からないけど、（それが結局、日本では金剛界に当たるのが高野山になります）、ボロブドゥールが見えるところで護摩焚きをさせてもらいました。ボロブドゥールの大地は金剛界、胎蔵界の立体曼荼羅。そのちょうど護摩焚きやる座がパウオンという五銛柁のお寺。そこに来られた方は、実はすごい栄光を受けました。その100年前の阿羅漢<sup>3</sup>といわれるレディセヤダーの文献をミャンマーのサガンで調べたときに「三十七仏<sup>4</sup>が非常に大切だ」と。ピーンと来たわけです。チベットでは三十七菩薩、これを一生懸命にやらせるわけです。これを本当に分かった人は弥勒菩薩を待たなくても、もう弥勒に遇ったことになる。弥勒に遇えば「マハーニッバーナ・ダートウ」（大涅槃界）といって、自動的にもう預流果<sup>5</sup>の界に上がってしまいます。

---

<sup>1</sup> スリランカの聖山。毎年、日の出を拝もうと、多くの巡礼者が山頂を目指す。

<sup>2</sup> インドネシアのジョグジャカルタ郊外にある世界三大仏教遺跡の一つ。近年の研究で「密教の曼陀羅を表している」といわれている。

<sup>3</sup> 四向四果（預流、一來、不還、阿羅漢）の一つで、煩惱をすべて消滅させて再び三界に転生せず、永遠の安らぎを獲得した涅槃の境地。

<sup>4</sup> 大日、阿閼、宝生、無量寿、不空成就、金剛波羅蜜、宝波羅蜜、法波羅蜜、羯磨波羅蜜、金剛薩埵、金剛王、金剛愛、金剛喜、金剛宝、金剛光、金剛幢、金剛咲、金剛法、金剛利、金剛因、金剛語、金剛業、金剛護、金剛牙、金剛拳、金剛嬉、金剛鬘、金剛歌、金剛舞、金剛香、金剛華、金剛燈、金剛塗、金剛鈎、金剛索、金剛鎖、金剛鈴（以上、「如来」「菩薩」の敬称略）。

<sup>5</sup> 四向四果（預流、一來、不還、阿羅漢）の一つで、人間に最高で7回転生し、やがて阿羅漢果を必ず成就できる最初の悟りの段階。須陀洹果を指す。

お釈迦様が「私はものの数にも入らないけど、私が死んだ後 500 年の正法時代に、ものすごい超天才が現れる」と言われた。「ナーガールジュナ」（龍樹菩薩）という方が四つの火山の力を利用した。このピラミッドの作用を見たらエジプトのすべての技術が入っているような、マヤ文明も入っているような、vibration を体で感じ、それからクスコのマチュピチュの技術も入っていることが瞑想で観えてきます、私が第九禅定（滅尽定）をパウオン<sup>1</sup>という五銚耕のお寺やったら「ニッバーナ・ダートゥ」（涅槃界）がサーッと降りて、その火山のすごい力で上がっていった。それがバーンと始動したわけ。だから、今でもこの始動したおかげで「ニッバーナ・ダートゥ」が、この地球にサーッと流れているはず。それを後で確認したのは、その場所に不動明王がスーッと降りてきました場所で、私と一緒にカナダから来て、深くインディアンとかかわったイギリス人の方が瞑想した後に、「火を見ました。金のような光がそこからサーッといっぱい上がっていました」。「ニッバーナ・ダートゥ」のこと。

結局、レディセヤダーが予言した「三十七仏に遇えば、弥勒菩薩を待たなくてもよい」という、このことなのです。だから、バガン<sup>2</sup>でこの行をやるときに、至急に日本に打電して、「三十七仏の法名と唱え方のマントラ（真言）を送ってください」と送ってもらって、それをやったら、第一回目の護摩焚きの丘の山がワーッと動いた。最後の護摩焚きの後に、天空には巨大な 10 キロメートル以上の結界の雷の輪もできた。神々は龍のごとく落ちないでワーッと舞っている。それにまた天空は網のように張ってしまっていて横に雷が発射していました。バーン、バーン、バーンと。ということは結局、天が応援して、この法はこの地球を滅ぼさないようにと。特に仏法に触れた皆さんは非常に素晴らしい、何があろうと、人生を持ったわけなのです、本当に。

この地球 70 億人いる中で、日本の人口 1 億 2000 万の中で、こういうふうにして本当に仏法を求めようという、もうこれはスマナサーラさんも言っているけど、「日本に生まれて仏法を学ぶということはもう極楽に近いですよ」と、私もそう思わざるを得ない。本当にこんな綺麗なところで、その時間的に制約されているのは仕方ないとしても、これだけ便利なところで、ありとあらゆる情報をもらって、自慢するわけではないのだけれど、今ここで私の話を聞いたら、あなたは明日、死んでも悔いはいはず。死ぬということはないのだから、本当にはないです。ただ、時空が変わってポンポン川の流れになっていくだけで死はありません。だから、「癌になって明日死ぬ」。それは心配ない。新しい体を持てばよいのだから。ただ、仏法を専念してください。それしかありません。必ず善い結果が起こります。私の体験からしても、他の人の体験からしても。行を終えて過去世を観て、私たちは話し合うのですね。時空はどうなっているのか、研鑽しなければいけないから。それで、行者は本当のことを話

---

<sup>1</sup> Candi Pawon (チャンディ・パウオン) : インドネシアのジャワ島中部の都市ジョクジャカルタ郊外にある仏教寺院遺跡。ボロブドゥール寺院遺跡群の一つで、ボロブドゥールとムンドゥ寺院を結ぶ直線の中に位置している小さな寺院跡である。

<sup>2</sup> ミャンマーのマンダレー管区にある地名で、旧名はバガン。アンコール・ワット、ボロブドゥールとともに世界三大仏教遺跡の一つと称される。ミャンマー屈指の仏教聖地で、仏塔の数は 3000 を超えるといわれている。

します。それも人のためです。いかにして法を優しくかみ砕いてうまくいくようにと。こういうふうにあなたはここに来て真理を求めたいと。この日本でもできない人がいっぱいいる。

これがまたすごくてね。これは密教の聖地である、ミャンマーのバガンのアロートピュエ仏陀。これは火の鳥、カルーナの羽で阿弥陀の印を持っている。赤。ここでアロートピュエセヤドーといってミャンマーではスーパースター。20年間、瞑想してこの仏が現れた。それをバガンで発見して、その仏がいるところを見て、全ミャンマーを回ってお金を集めてお寺を再建しました。「願いの叶う仏」といわれています。現地では阿弥陀ではなく、アロートピュエ仏陀。西の方向にあります。東西南北、結局、東一阿闍仏、南一宝生仏、西一阿弥陀仏、北一不空成就仏。

それがスリランカでも5世紀から7世紀、この王国でちゃんと四方向。真ん中は阿羅漢の骨、舎利。それはやはり毘盧遮那仏のこと。だから私たちは文献学的に言っているけれども、実際の行法はもうタントラ（密教）もあり、大乘もあり、スリランカもやはり1500年前の王様が結局、一番大切にしたのは『金剛般若波羅蜜多経』。想像を絶するでしょう？ 石に刻んでちゃんとあるわけ。そして、結局さっきお見せしたように、私もチベットによく行って、チベットのお坊さんともお話ししたけれども、このタントラの秘宝は見せてもらったことがない、このやり方。というふうに表向きと極秘の世界は違うのです。見せられない。ちゃんとあるわけです。こういうことは文献でも言わないから、絶対に学者が来ても教えない。だってこれが分かるのは、やはり法を持った人間なら分かるけど、話してもちんぷんかんぷんになるからね。それで、これには全宇宙の秘密が書かれてある、このやり方。それで、ここにはまた行法の使い方がちゃんと書いてある、東西南北。



ボロボドゥールを案内するポリスカー

## ピラミッドと数字

---

私が非常に今回、縁あって「ブータンの学会で発表してください」ということで、そう思って非常に忙しい行程になる予定だったけれども、幸いブータン学会が今年は資金面で開催されないと。なぜ私がブータンに非常に興味があったかという、この密教のお寺はすべてインターバルピラミッドになっているから。エクスターナルピラミッドはご存じのようにエジプト。ブータンの最高のお寺はやはりインターバルピラミッドになっている。中がピラミッド方式になって外は普通の建物。なんとこのボロブドゥールのクティ全部、インターナルピラミッドになっている。それからメンドウ<sup>1</sup>、胎蔵界、これもインターバルピラミッドになっている。外からは普通の建物。

なぜピラミッドが非常に重要な意味を持つかという、これが今問題を起こしているイスラムとも関係があり、キリスト教とももちろん関係がある。三位一体のトライアングル。ゾロアスター、ヒンズーとも関係がある。だから、すべてつながっているわけです。だから、北アメリカのインディアンは火の組み方を三角形で組むのです。ピラミッド方式で、やり方があるわけです。マヤ文明でもインカ文明でも「7」という数字が、非常に大切な数字になっていて、すべて「7」でやってしまう。仏教の秘伝もやはり「7」なのですね。だから、ミャンマーでは七つの仏で一週間を表します。一週間は七日のどの仏の日に生まれたかが、とても重要になっています。高野山に観心寺というお寺があります。そこの最高の秘密は七つのお宮があるのです。七つのお宮、それは北斗七星の「七」をかたどっています。7と7で14。北米インディアンは「7 Ground Fathers, 7 sky-ground Fathers」、「空と大地のおじいさん」という7と7で14、女性もまた「7 Ground Mothers, 7 sky-ground mothers」、7と7で14、14と14で28、二十八宿となります。護摩焚きも二十八の行があります。このことです。「13」も非常に意味があります。「13」の月があります。これが結局、北米インディアン。ところが、南方でも月が非常に大切です。「13」の月。

というふうに、今回の旅で明快に分かったことは、非常に密接にこの文明はつながっていて、人間界だけではなく天界までもすべて応援して見ているのです。それは皆さんをいかにして心の進化をさせるかという。だから何にも恐れることはない。「この人生、法を求めて、ただただ人のため世のために尽くし、嘘をつかず」、私が前に言ったでしょう。三つの戒を守ればいい。これに227の戒、350の比丘尼の戒すべてが入るのですから。なかなかできない難しいです。でも、それに近づくようにしていって「本当に生死はないのだ」ということです、あるのはただただ「何をしたかの人生」での記録が刻み込まれている、サンカーラ（行、形成作用）だけです。このことを「因縁」と、皆さんは言っているのですよ。

---

<sup>1</sup> Candi Mendut (チャンディ・ムンドウ)：ボロブドゥールから東に約3kmの場所にある仏教寺院遺跡。かつてはボロブドゥールとムンドウとの間を一直線に結ぶ旧参道があったといわれている。すぐそばにパンチャバロ長老のお寺がある。

## 法を持つこと

南京虐殺はありました。三つのときから天皇陛下の教育を受けてそこに送られて、命令で、赤ちゃんを抱いている母親を拳銃で撃たなければ、自分がやられたでしょうね。でも殺さなかったわけ。しかし同僚が射殺したみたい、その同僚たちは地獄に堕ちていった、夜な夜なその同僚たちの強烈な地獄からの悲鳴で、前世でも大変な苦しみの中で生きていたそうです。その後、非常に悔いてお坊さんになって、マレーシアに生まれたわけね。この世でも24時間強烈なこの悲鳴の声で日夜、後悔の念をこの一冊の本にまとめて仏に懺悔するのだけれども、ほんの1ページか、2ページの効き目しかない。それで、私はこの沙弥に「だから、君は一切を捨てて、私の弟子のいるスリランカに行きなさい。そこで、『法』を持てば、『法』を知ってしまえば、必ずや救われます」と言いました。

アングリーマラーという方がいて999人殺した後でも、アラハト（阿羅漢）になったから涅槃に行って、一切の地獄界に堕ちなくても済むわけ。それもお釈迦様がそれ以上の殺人を止めて、「法」を与えましたからです。すべて「因縁」なわけ、この世はすべて「因縁」。「善い因縁」に出会うには、何があっても「善いこと」をただただしていけばいい。でも、みんなに従っていけば間違いないと考えてそのようにした場合は、これは多に間違いに出会うと思います。福島原発もそうでしょう。ウォール・ストリートもそうでしょう。デモクラシーは最高だけれども、どの国が最高にパフォーマンスでよいかというと、やはりシンガポールなのです。アメリカの億万長者は今から8年前に全部シンガポールに行ってしまった。日本のほとんどのトップ階級の方もそうじゃないのですか？

シンガポールをつくった人は、1932年に禅師の和尚さんに「お前はシンガポールに行きなさい」と言われ、小さな小屋みたいなお寺をもらって、IMFでシンガポールが潰れようとしたときに、寺を開放して食料も信者に持たせてタダで食べさせて泊まらせていたすごい禅師なのです。みんな政界の人たちは、この禅師の話を聞きに行くわけなのですよ。『Loving Kindness』という本を出版して、シンガポールでは非常に有名です。非常に大きな広大なお寺の2代目の和尚さんがいますけど、2400の舍利を出したといわれています。だから結局「法」を持った禅師がその中で住むということは、大変な影響を受けるわけなのです。善い影響。

だから、今この日本で最も心配しているのは「いかにして『法』を持った人間をつくらなければいけないか」ということ。「法」というのは本ではできない。私の弟子も30年間ただ座っているだけ。でも今回、非常によかったのは、韓国で15年山の中、南伝を15年30年目、やはり「法」を持ち始めているから、私にとって非常に素晴らしい栄光となりますね。ただ日本でも早くこういう人を作り出さなければ、結局デモクラシーでは見えないのですよ。アインシュタインは落第生だったけれども、世界を変えるしね。日本で悩まされている花粉症の杉の研究を20年間コツコツやって、やっと花粉が出ない杉を開発して、そういうふうに真理というのは多数決ではないのですよ。これがまた非常に難しい問題で、皆さん一人一人が立ち向かっていただきたい。そういうふうに「真理」の力で生きていけば、必ずや来世は善いことになるし、また今世でも人助けになっています。

去年、私はスリランカで「サティパッターナ、サティパッターナ」と言ったのですよ。な

んと今年は「サティパッターナ、サティパッターナ」と「瞑想」「瞑想」と言い始めているのです。いやー嬉しい影響ですね。結局、南伝の人は理論仏教では立ち向かえなくなっている。やはり真理を知りたいと。北伝の韓国でも瞑想が上なのですね。その下が経典仏教になるから、お寺ではみんな瞑想はさせます。そこでも息詰まるわけなのですね。そこで『サティパッターナ』のニミッタ（丹光、禅相）を使って発射すれば観え始めるのですね。韓国でもまたミャンマーでも観えるのですね。バーっと30年もやっているから鏡みたいに観えるわけです。でも経典仏教10年ではまだ観えない、本を読んでもただ座っているだけで。だから1日30分位、無理だったら10分位静かにウペッカ（捨、平静）の世界を目指して静かに止禅。

だから今、パオでも最大の問題点は止禅。禅をいかに勝ち取るかということ。ヴィパッサナー（観）を長くやれば不安定になるのですよ。というのは、土台、止禅をしっかり持ってやらない場合には、揺れるのですよ、サーッと。この揺れをいかにして止めるかという手法があります。それを今回、数名の方とももちろん行を終了された方々とか、Teacher's Positionの方とちゃんと対等にお話ししました。ミャンマーでやはり一番、私に興味あることは、どういう手法で人を教えているかということでした。結局、前代未聞のことをミャンマーでやってきたから、非常に興味あるわけですね。だから、今ミャンマーではカナダにいる比丘ということで、私のことを分かっているみたいで、「あなたはミャンマーでは有名人ですよ」と、日本では名無しの、どこにでもいるような比丘ですが、そういうことらしいです。

## 護摩焚きの行

去年は日本にお招きいただいて合宿して護摩焚きの行をやるということで、奈良の薬園寺の北野さんという偉い和尚さん、修行僧で行をやるお坊さんなのです。1300年の伝統、東大寺よりも古い伝統を持つお寺です。そこに呼ばれて問答したのです。体験者同士だからもうツーカーで2時間話したらすべてOKが出て、すぐ房総半島で今度、護摩焚きの行。護摩焚きって火を炊いてやればできるんでしょうと思ったら、なんと200ページ。印を組んだり、やったことがないマントラ（真言）唱えたり、睡眠は1日4時間だけ。ご飯食べる時間も味噌汁にお湯入れて、自分で寝る前に2、3食分の炊飯器のスイッチを入れて、夜中1時に始まって大体5時、6時に終わってパパッと食べて洗って用意したら、すぐに8時になる。それからまたダーッとやったら午後の1時。行をやるには5時間かかるのですよ。そして3時までの間に風呂屋に行ってサッサッサッと洗って、また行をやって、お休みは8時に終わるから結局1日4時間しか寝られない。まーよくぶっ倒れないね、とっていました。

密教の護摩焚きの秘伝は、非常に仏教界の中では秘法になっているわけなんですね。これはナーガールジュナ（龍樹菩薩）様の直伝だと思います。私は、これ本当に仏教なのかなと思うくらいのことをやらされたから。ただその中で一番大切なのは、「慈悲の呪文」の使い方があるのですね。「慈悲」というのはパオでも非常に重要視されている、結局ブラフマ・ビハーラ<sup>1</sup> (brahmavihāra: 四梵住) の使い方。メッタ（慈捨）、カルーナ（悲）、ムディター（喜）、

<sup>1</sup> 四無量心（慈悲喜捨）の瞑想：慈・悲・喜の瞑想は第三禅定まで、捨の瞑想は第四禅定まで行ける。

ウペッカ（捨）。結局、「愛」「慈悲」それから「歓喜」「平安」。この四つ。この四つをやることによって全宇宙どころか地獄界から天界すべて（観えます）。それを観るか観ないかによって次の行が決定される。

## パオでのニミッタ

---

パオで非常に重要視されているのは、ニミッタ（丹光、禪相）の力がどれだけあるかというのはいくらどの時間帯でできるかということ。1時間では第一禪定には入らせない。私の場合は3時間半。だから、私を教えてくれたウレヴァタ先生は「あなたは3時間半続けて守って教えているのか?」、「これをやれる生徒はいないから西洋では教えられない。1時間やれたらパオに送ります」と。パオセヤドーはミャンマーの比丘たちに5時間坐らせる。結果的には、私は6時間半、坐禅やらされたのです。韓国の方で校長先生をやって退職された方で今70歳くらいで、ウレヴァタさんが「あなたは強いニミッタを持ちなさい」、「強いニミッタとはどういうことですか?」、「長時間保つこと」、なんと7時間半ダーツと坐ってみせた。「それでO.K.！」と次に進んだ。パオ僧院以外でいくら終了しても、やはりパオでもう1回、試験、受けに来なければいけない。それで、みんなから認められて、カマタナチャリヤという体面を受ける。だから、私はカマタナチャリヤということ。「40の瞑想を知った、行法を持った人」という意味。

## 三十七仏と護摩行

---

そういうことで、護摩焚きをやって「やーすごいものだ、ブラフマ・ビハーラ（brahmavihāra：四梵住）がピターッと入っている」と。本当は「三十七仏」だけど、日本でやる場合は「三十七」という数字が見えてこない。毘盧遮那仏と四波羅蜜菩薩。ダーツと阿闍梨が書いてあるけれど、バガンでレディセヤドーが「三十七仏に遇えば、弥勒菩薩を待たなくても会うことになるから」と。それでピンと来たのは、韓国のお坊さんがダライラマさんに教わるために、ダルマラサに行くわけですよ。何をそこでやったかといえば、朝から晩まで「三十七仏」の行をやらされた。あーこのことかとすぐ分かった。それで数えたら護摩焚きはちゃんと「三十七」になっていた。仏と菩薩が混ざっているけれども、「三十七仏」というのはこのことです。ちゃんと日本にあったのです。マントラ（真言）も。ポロブドゥールに行く前まで分からなかった。密教の聖地バガンで発見したのです。

3000人のお坊さんが外国から来て勉強する大学の図書館で、このことを発見したわけです。南伝の人は「二十八仏<sup>1</sup>しかない」と言っているのに。「三十七仏」と言い切っているからね。そしてびっくりしたのは、まさにレディセヤドーが阿羅漢と分かったのはこの世で誰も私に説明してくれなかった非常に重要なジャーナ（禪定）の使い方を明快に言っていたからです。

---

<sup>1</sup> 作欲、作慧、作依、燃燈、嬌陣如、吉祥、善意、離婆多、所照、高見、蓮華、那羅陀、蓮華上、善慧、善生、喜見、義見、法見、悉達多、帝沙、報沙、毘婆尸、尸棄、毘舍浮、拘楼孫、俱那含、迦葉、釈迦（以上、「仏」の敬称略）。

私はその点、非常に疑問に思っていたけれども、150 年前に出られたこの阿羅漢が私の疑問を明快に書き残しているのです。現代ではこれは見せられない秘法になってしまっています。それで、そこで私が非常に納得いったわけです。スーッと疑問点が落ちてしまったのです。

だから結局、北伝も南伝もないわけなのですよ。本当のことはどこにでもあるわけですよ。これもまた秘伝になるのです。全部パーリー語。サンスクリット語ではありません。なぜパーリー語を使うかという、お釈迦様はパーリー語を使ったから。その言葉でお経を発音して、こういうふうに使えば、非常な奇跡が起こるのです。これをタントラヤーナ（密教）といいます。聞いたことも見たことないと思いますよ。これは見せない。あなた方は最初に日本でこの秘伝を見えています。その図の書き方もこうです。見たことないでしょう。私はチベットの経典もずいぶん探してみたけれど、この図とかはトロント大学の奥伝でも見るができなかった。チベットのお坊さんとも相当、談義したけれども、これは見るができなかった。なぜかといったら、これはインド直伝の密教で、スリランカにすぐに入ってきたのです。チベットに渡ったのは 1000 年前。それより 200 年前にもう弘法大師様が持って日本に来ている。秘伝だから見せないだけで、日本にあるのかもしれないよ。でも、スリランカにちゃんとあって、私に教えてくれたわけです。2 年目だから心許して、やり方から全部、見せてくれる。

今回の日本での護摩焚きは、すごく善い影響または進化を受けましたね。私がこの護摩焚きで何を祈ったかといえば「日本の大平安」。日本のこの仏国を是非、守ってくださいと。これは人類にとって、とつても大切なことですよ。日本では「葬式坊主」とか非難されているようなこともありますけど、真面目な方がたくさんおられると思います。やはりカンボジアでもミャンマーでもスリランカでも、人が死ねばお坊さんはお経を唱えるために、すぐに行かなければいけないのです。日本みたいにお金をもらわないけど、食事を受けてきちんと接待を受けなければいけないわけです。どこの国もそれが忙しくて、ほとんど勉強できないようになっています。行けばもう仕事が済んでおいしいものを食べられて、お経をちゃんと丸暗記すればそれでよいと。でも、やはりそれだけでは体も頭もおかしくなっていくから、最終的には瞑想 (bhāvanā バーヴァナー) しかない。ダーナ (布施)、シーラ (戒)、バーヴァナー (瞑想)。Patipatti (修) というのは経典を一生懸命、考えること。pativedha (證) になれば瞑想を深くすること。ちゃんと深い真理を受けること、ということになりますね<sup>1</sup>。それが非常に大切です。

## ニミッタの本当の力

---

日本の素晴らしい弘法大師が中国で恵果様からもらって来て、1200 年守ってきたことに対して驚嘆しました。護摩焚きは私の体験からすると、ニミッタ (丹光、禪相) によるジャー

---

<sup>1</sup> pariyatti (信、解—信じて話を理解する) : 説法を聞くこと。

patipatti (修—文献を研究する) : お経を読んで考えること。

pativedha (證—瞑想で悟る) : 瞑想で体得すること。

ナ（禪定）がちゃんと組み込まれなければならないはずで、それで泉涌寺の月輪大師が中国で14年もの間かけて、やっとニミッタを習得して帰ってこられた、という意味がよく分かりました。あとはイマジナリー（空想）ジャーナというのがあります。自分で一生懸命、イマジネーション（空想して）してジャーナに入ると、これでは通過できないようになっていきます。

だから、まず最初に第一の灯をともしるときに21段とって21回、護摩焚きを行うのです。それで行をやってよいと、阿闍梨の資格を持って行法をやってよいということになります。第1回目やったとき、やはりダーッと雨風が吹きましたね。20回目が終わって21回目の行が始まる前の朝、山がドーンドーンと3回動きましたね。21回目に入ったときはナーガ、龍神様がバーッと出て、その山は観音山とって守護神は青龍、青い龍なのです。雨もバーッと降りました。

その日のうちに京都に着かなければ、次の日は神護寺で灌頂を受ける手筈になっていました。灌頂を受けて、初めて私が正式にどこの大地に行っても護摩焚きができる、という認可を受けるということになるわけです。まあたくさんのお坊さんもいました。23日に終わって24日に神護寺で灌頂式を受けて奇跡的。それも1200年ぶりに初めて開壇された。弘法大師様が1200年前にそこで最澄様やいろいろな方を灌頂させて、奇跡的に1200年間、閉まって初めて開いたところ。そのあと三千院で天台宗の護摩焚きを拝見させていただいて、韓国も1000年前、高麗時代は密教だったのですね。だから五銚杵も博物館にありました。今はなくなっている。今は使わない。それから鈴もちゃんとありましたね。これもやはり密教だったのだということです。

海印寺というお寺があります。東海第一道場でそこには全経典が詰まっているお寺です。韓国語でヘインサ。その近くで護摩焚きをしました。瞑想会だったときに20年30年やっている、あちらの比丘・比丘尼たちが一番びっくりしたことは「行が進まない、どうしても通過できません、どうしたらよいのでしょうか?」、「じゃあ、あなた方は比丘・比丘尼だから、一時間半、坐ってください」。そのときに一般の方も4、5人いたけれど、「あなた方は知りたかったら1時間、坐ってください」。そしたら一生懸命、一緒に坐っていました。私のご存じのように水晶玉を持っているのですね。これで私のニミッタも増幅してファーッと出てくるから、「私がニミッタを発射するから、あなた方は何をあなたの心で観たか言ってください」やはり20年30年やっていれば、映像がサーッとちゃんと観えるのですね。「そしたら、あなたはこの行で、こちらの方に進んでください」。細かく指導しなければいけないので、一人一人インタビューが30分くらいかかります。1回ごとにそれをやります。2回、3回とどんどん進化していきますね。

だから、ニミッタの使い方はすごいですよ。結局、皆さんにニミッタを持ってくださいというのは意味があるのです。今ここで観えなくてもダンマヌパサナー（法随観）の体験をするようにすれば、どうしたら出やすいか出し方も分かります。実は偉い先生は絶対、何も教えないということらしいですね。でも、私は偉い先生じゃあないので、事細かに教えようとしているのだけれども。阿弥陀様を観るとか、それはすべてニミッタの力なのです。映像を

自然に出しているのですね。結局、信（サツダ）・念（サティ）。この二つが心を進化するうえで、非常に重要なカギになってくるのです。この二つによってパシニャー（智慧）が発生します。叡智が発生します。これによって心が静まるから、深いウペッカ（捨、平静）に行きやすいわけなのです。

これを事細かにパオ総本山で談義しました。パオ総本山ではウペッカができないと、ヴィパッサナー（観）で非常に苦しんでおられる方もいらっしゃいます。ウレヴァタ長老、総責任者と談義したときに、最後に彼も納得して「はい、分かりました。それでよろしいです」ということになって、パオで私は「ヴィパッサナーはダンマ（法）を持たせることによってウペッカが発生するから、サマタに入りやすい」と、ちゃんと談義しました。やはり法を持つ者は人にいかにして法をつかんでもらうかが、最高の使命なのです。法を持つことによって、次の世で非常に素晴らしい心の進化が発展しますからね。この世でいかにしてつかむかが非常に大切です。

それでニミッタを発射して本人たちも1回やるごとに、どんどん進化していくので、本人たちもびっくりしてしまいました。それでこう言うのです。「私は心臓が小さいときから痛いのです」、「よろしいでしょう。ここに坐りなさい」。サーッと手をやると、スーッと取れるのです。これだけの力で。そうしたら、もう一人の人が「私は20年間、頭痛があるのです」、もちろん手で触りません。スーッとやったら取れるのです。それでもう皆さんびっくりしました。こういうことを実はミャンマーでもやりました。お医者さんが今日死ぬか、明日死ぬか分からないという人がいて、本人は分からないのだけれど、20分30分ごとに飛び上がるのです。お医者さんは鎮静剤を打つだけで、もう家族全員が病室に集まって、私がお医者さんに手を当ててみたら、ハダヤ（心基）、心のルーパー、物質が頭に来ていたわけです。だから、「頭に来た」ということは本当のこと。スーッと押さえて元に戻してあげました。その苦しんでいる息子さんを見ているお母さんが心臓発作になるみたいに、体が大変な状態になっていました。その人もスーッと手を当てて落ち着かせた。いまだ息子さんも生きているし、お母さんも本人も、その後なんともないとお礼にやってきました。というふうに止観をやれば、人の体がどうしたらよいか、ちゃんと観えるのです。

5世紀、6世紀にはスリランカのお寺では、すべてクティに入って瞑想させる。それは何のためかといえば、瞑想の力によって人を治すわけなのです。だから、瞑想道場の前にきちんと石をくりぬいた人間の形をした風呂桶があったところに薬草を入れて、お坊さんはどの薬草を風呂に入れればよいか、体が観えるから、ちゃんと分かっている。だから、瞑想というのは、ただ自分のものだけではなく、「人のために」「社会のために」「国家のために」「人類のために」「ありとあらゆる生命のために」いかに使うか、というすごい力があります。もちろん、何が幸せであるかということも分かります。皆さんが一時的に体を動かしたりするのは一過性的であって、本当の幸せとは法に触れたときに、絶えることなくいつでも昏々と湧き出てきます。

それで「先生、私の教えている若い20歳くらいの女性なのですが、生まれて10カ月のときに双子の妹さんが死にました。20年生きて、人はその人のことを「夏」と紹介するのだけ

れど、20年前に死んだ妹の名前が「冬」というわけ。いくら自分で「夏」と紹介しても、突然「冬、冬」と呼ばれる。それを聞いて本人は飛び上がる。「あなたのお父さん、お母さんは間違っって呼ぶことあるの?」、「絶対ありません。見も知らない他人がそう言うのです」。もちろん、この比丘尼は霊界（餓鬼界）もあるし、地獄界もあるということを経典で叩き込まれているので分かっているけれども、実際に目の当たりにして、それを見ている。「先生、何とかしてこの人を助けてください」、「いいでしょう」。

私は日本、韓国と連続で、次から次と忙しくてあんまり疲れているから、サンガに入ってクアラルンプールに行っって、マレーシアに行く前に疲れをとろうと思っってサウナに行っって帰っってきたら、「先生、どこに行っっていたのですか? 約束忘れたのですか? 若い女性に会っってくれる約束だったでしょう?」、「そうだったですね」。この人は高級車に乗っって遠い田舎から出てきたらしい。「よしよし、それではお話を聞きましょう」と、小さいお堂に連れていっって。「わー! 二つ入っっている!」、一つの体に二つ。「ここに座りなさい」「あなたに行法を教えるから、まず妹さんを心から祈っって、地藏様にお祈りしなさい」。その地藏様の呪文を教えて、その後、比丘尼さんが「この女性の手を握っってください」、「いやいやそれはまだまだ」。やはりワッとニミッタを発射したら、スーッと出ていっった。スーッと一つの体になっって、それでそのあと手を握っってあげて、私の数珠をあげて「これで供養しなさい」と。

なんとそれを通訳した人が大学の先生で、「先生どうか今夜9時に私の奥さんと会っってください」、「もう明日、私、出発しなければいけないので」、「いやいや先生どうかお願いします」。9時はお寺では皆寝るのですよ（笑）。それから私の部屋に行っって「お兄さんが破産はするし、事故は起こすし、今は病院なのです。上のお兄さんは自殺しようとして一命を取り留めています。実はお兄さんの奥さんが数年前に死んだのです」。その6カ月後に旦那さんのお母さんが癌になっって死んだと。「ほー、番町皿屋敷」みたいなことが発生したわけなんです。その恨みがこうきて、口の癌になっって死んだと。「それは大変だ。それでは韓国に祈祷師というのがあるでしょう」、「はいあります」、「じゃあ、その人の命日に呼んで供養しなさい。そうしたらこの因果が善い方向に行くでしょう」、「実は明日その人の命日なのです!」、「いやーそんな、私、明日、飛行機で行くのにどうしますか?」、「いや飛行場に送りますから、何とかお願いします」、「いやーそれちょっと話が合いますね」

なぜこの秘法を知っっているかと言えれば、実は前回は話したように、今ミャンマーで非常に立派でダンマチャリヤになっってパオの行を終えて過去を知っっている方がいるのです。それが死んだときに木の神様になっって、自分の家とか息子とか全部じーっと見ています。だから、そこに住んでいる人たちは夜な夜な幽霊が出たみたいに、非常に気持ち悪いことが起こったのです。ある森に住んでいる行者に相談したところ、「あなたの旦那様が木の神様になっって憑いているから、お坊さん呼んで食事させて結界を作りなさい」と。そのあとスーッと消えて、彼は今ミャンマーでは有名なパオの行者になっって先生になっています。その方の話をちゃんと知っっているものだから、これもまた同じ例で、やはりそういうふうにお祈りしてお坊さんに食事してあげたら、その因縁が消えてうまくいくのです。そしてそのときに行をやりましたね。サーッとお経を唱えて、やり方があるのです。紙にその人の名前を言いながら、名前を書いって生年月日を書いって、そして火をつけたらバーン、バーン、バーンと3回、

爆発。紙が爆発することないでしょう？ 何とかうまく火を燃やしてスーッと去って、うまくいったと思います。というふうに、本当に幽霊（餓鬼）の話はあるわけなのですよ。だから、そこで幽霊の世界に送ってあげるかあげないかと。結局、本だけ見て生半可にやっても、うまくいかない。

それが韓国と日本のお話になるけれども、やはり行をやっていたら不動明王様が観えますね。サーッと現れてきます。サンスクリット語ではアチャラといいます。「水に関係した」という意味です。だから、肌は水波のように不動明王様の体は、火の中なのに水みたいにファーと陰影を出す。そして、その火も迷いを消すような非常に純化された火を出します。やはりすごいもので、ちゃんと観えます。それで赤不動、青不動と、ちゃんと使い方があります。胎蔵界、金剛界と、その使い方によって青不動になるか赤不動になる。その方向もちゃんと決まっている。これは日本の高野山で教えてもらっていません。これは私がボロボドゥールに渡ったときからメッセージが来るわけなのです。ちゃんと西の方から設定されて拝んだときに青不動。東の方からは赤不動と。

高野山と京都の間にはすごい秘密があります。だから、日本は結界が張られて守られている国だけれど、ここで法を持つ人間をいかにして早くつくらなければ。前はたくさんおられたと思います。今は非常に情報が激しくて、迷いが発生して何かうまくいかないような気がします。また時間的にも無理があると。その点を今回の護摩焚きで少し心配したのですが、でも何とか皆さんがいるからうまくいくでしょう（笑）。

護摩焚きの行法の究極の極意は、ヒンズーのブラフマーのすべてが発生した究極の世界が観えます。数学的にはですね、この球体がどうして卵みたいなオーブになるか、これがいまだに誰も証明できないのです。すべての存在が、ここにちゃんと全部つながっている。だから、仏法の力はすごいですよ。

## 南伝と北伝の二大巨頭からの認可

---

やはり人生というのは夢ですね。夢と一緒にですね。あっという間に過ぎ去っていきます。一番今まで生きてきてよかったのは、やはり法に触れることができたということですね。私が20回前の人生では（ヴィパッサナー〈観〉で20回前の人生を観たときに）私は比丘だったのです。衣を着て木の下で死んでいったのですが、そのとき一生かかっても、一つの法にも出会えなかったのですね。遠い昔のことで、20といっても歴史的な20ではなくて宇宙的な20だから、4カルパ（劫）以上も前のことです。カクサンダ仏陀（拘楼孫仏）。カッサパ仏陀（迦葉仏）、コーナガマナ仏陀（俱那含仏）の前の話だから、人間は時空を飛んでしまうのですね。だから、すべての体験は法に向かって私はずうっと生まれ変わってきたのです。何回も言うように、次の世で日本に生まれて、日本語で本当の仏教に深く触れるという決定はない。（パティパッティといって、経典を読んでから今度は深く瞑想に入っていくこと）この地球には経典のない世界がいっぱいあります。南米へ行っても、スリランカへ行っても、ほとんどのお坊さんは教える先生がないから、瞑想の仕方が分からないのです。私は全然

知らなかったのですが、びっくりしたのは、この世で本当の瞑想者に遇えるというのは、珍しいことだったのです。一年前にスリランカに行って、私が「サティパッターナ、サティパッターナ」と言ったら若い人たちも「サティパッターナ、サティパッターナ」と、一生懸命本を持ち出していました、実際の瞑想が分からなかったのです。

今回は 30 数年ぶりで 2000 年の歴史を持つ通度寺の大和尚さんにお会いして、非常に喜んで一目見て分かるのです。その人は私の未来を予言して、そのとおりになっているから、早朝読経をした後、私の顔を確認にきたのですね。「先生、私を覚えていますか」、「もちろん覚えています」。30 数年前に私のために認可証として掛け軸を二つくれたのです。そして、今回、私の顔を見て「好きなようにしなさい。それでよろしい」と、確認に来たのです。今回は二大巨頭、韓国の 60 数年間の瞑想者と南方禅の 50 数年の瞑想者パオセヤドーの二人から「好きなようにしなさい」と言われてきました。今回、ミャンマーでパオセヤドーと対談したとき「ヴァジュラヤーナ（タントラヤーナ、密教）、テーラワーダ（南伝）、マハヤーナ（大乘）も、みんな同じことを言っています」と、私が言ったら「そう、そう、そのとおり」と、彼もすぐに言うのですね。それを聞いていた「マハヤーナ駄目、テーラワーダだけ」という南伝の方々は顔を真っ赤にして、ショックを受けていました。ダンマというのは真髄が変わらないのです。善いことをする人は善い、悪いことをする人は素晴らしい衣を着ていても悪いと。

## 質疑応答

---

### 肉食はどうか

---

#### 【参加者】

あるお坊さんの記事をインターネットで見たのですが、「仏教徒は肉食をすべきではない」と「肉食のカルマというのは殺された動物の痛みや苦しみのカルマを食べると受けてしまう」ということが書いてありまして、自分も肉食を控えた方がよいのかと、妻と話し合ったのですが、「肉を食べなければ食べるものないよ。植物も動物も関係なく生きているものをいただいているから（いただきます）という言葉があって、それで生きているいではないの？」と。それで納得したのですが。

#### 【水源師】

まあ正解ですね。というのはお釈迦様が生きていたときにデーバダッタという方がおられて、この方はお釈迦様が鹿のときに狩人となって殺そうと思って、延々と続いた因縁を持った方で、お釈迦様の教団を盗み取ろうと分裂された方なのだけれど、その人は「肉を食べてはいけない」と、「命をとるから」と。「坊主は家に住まないで森のすみかで住みなさい」と。「坊主はきれいな衣を着ないで拾ったもので衣を着なさい」と。人を素晴らしく共感させるようにして分断したのだけれども、お釈迦様は「肉を食べるな」とは一つも言わなかった。

「肉を食べるな」という決まりができたのは、1500年くらい前くらいのことで、中国の皇帝が「坊主は殺生された肉は食べるべきではない」と。ということから始まったのです。ただし「少林寺のお坊さんは肉を食べてよろしい」と。なぜかという、少林寺のお坊さんは敵が攻めてくるときに皇帝を救ったのですね。そのご褒美として「食べてよろしい」と、ただしロバの肉だけで、他の肉は食べてはいけないようです。

結局、南伝の方は肉を食べてはいけないというのは全くないのです。何の因果で魚に生まれるか、牛に生まれるか、鹿に生まれるか、植物に生まれるか、木になるか、それは分からないけれども、私がコロッと死んで皆さんが食べてもなんとも思わないのだけれど。ただ、私が魚を食べるときには「この魚さんたちは菩薩行をして全身供養して私に捧げてくれるのだなあ」ということになって食べていますし、また北国のインディアンはお米、麦、小麦を食べられないのです。ゼラチンを消化できない体質になっています。長い間、野生の植物しか食べていないので、野生のプロテインしか取れないのです。

チベットに旅行したとき、全部、輸入して山に持ってこなければならぬので、野菜が一番高かったです。食べるものとして、その代わりに寒いので、発酵食品のヨーグルト、バターミルクなどで栄養を取って、プロテインを補給します。カナダの北方に行けば、すべて飛行機で輸入しなければいけないし、現地の方たちはオットセイを殺して食べなければ生きていけないのです。血をすすって初めてビタミンDとか全部入るのですが、ところが血をすすってドラキュラみたいだと一般には思うけど、その人たちにとっては最高の栄養剤になるのです。そういうところに生まれたら、その方たちはただ物として食べるのではなく、神から

戴いた物としていただきます。そういう心で食べれば、あまり気にしなければよいのだと思います。

カナダの人で野菜だけ食べれば殺していないので聖者の位に上がったと思って、10 数年続けたけれど、体も頭もおかしくなって震えるし、肉を食べるようになってから、スポッと震えが止まったのです。だから、私たちの体は味噌とか豆腐とか、いろいろなプロテインが入るようになってはいるけれども、私たちのような体ではない人もたくさんいるし、たくさんのお生命体の方々が菩薩行をされて私たちに与えてくれているという感謝で戴けばよいのではないですか。

私も今回、スリランカでお酒を戴き体が治ったのです。なぜかという、スリーパーダといって 2243 メーターの山で 5 時間かけて登ったのです。寒いし体も硬くなって降りて来たら足もパンパンで、5 時間、石の上でずうっと護摩行をやってきたので、やっている最中は無心にやっているのだから分からないけど、あとで降りて来て体に響くのです。2 日しても治らないから 3 日目に素晴らしいお坊さんがそっとお酒を持ってきてくれて飲ませてもらって、次の日スーッと回復しました。「無茶に飲んでドンチャン騒ぎするな」ということであって、薬とかそういうことでは禁止されないと思っています。

お釈迦様も肉を供養されたときに、きちんと食べています。それを見た信者さんが「お釈迦様、どうしてそんな汚い物を食べるのですか」と。戴いた物は戴いた物として、きちんと供養を受けていますから、あまり肉食はダメ、野菜主義だと言っていたら食べる物がなくなってしまう。南方で素晴らしい蓮の花が咲いていて、朝は萎んでいて段々開いて、夕方また閉じるのです。生きてるわけなのですね。それを切って捧げようと、ちょっとできなかったです。生きてるものを殺すという、だからそういうところではないですか。

植物であろうが、何であろうが、必要であれば感謝して戴いて、そしてちゃんと大事に使うと。それをむやみやたらに物である、何であると物質的な考えですと、あまりよくないと、そういうふうに考えています。だから、どこの社会でも「神仏に対して戴きます」と、として戴ける。「この物は天から送られた物だ」と、「先祖から送られたものだ」と、「仏から戴いた物」ということで、あまり深刻に考えなくてもよいと思います。

## 分かったふりをする恐ろしさ

---

### 【参加者】

自分は最近、日本の禅・曹洞宗の坐禅会に通っているのですが、禅宗の人たちが、日本の禅の伝統というのはきちんとして、南方禅は邪道と思っている節があって、私は無我が見えたと、自分のやってきた禅が正しいと、南方禅は邪道で理解できないと思うのが、私には何かつまらないと最近、思うのですが。

### 【水源師】

禅は本家本元 達磨大師から伝わったでしょう。達磨大師様は『達摩多羅禅経』というお経

を残しています。そのときにアナパナサティ<sup>1</sup>（入出息念）とか全く南方禪と同じことをやっています。その一番大先生の1500年経った人がそれを否定するというのは、達磨大師様より偉いということになるけれど、それは完全に驕りですね。無我というアッタ（我）・アナッタ（無我）のこれをはっきり分かったら阿羅漢なのです。だから、すべての法は何であるか一目でわかるはず。まあそういう人は禪病にかかっていますね。それも無我がはっきり分かったら自分の過去も観えるはず。未来も観えます。時空を超えて、すべてに自分というものがないのだから。哲学仏教で無我をやれば必ず頭がおかしくなります。まあそこがおそろしいところです。悟ったという禪病にかかるお坊さんが多いのですね。

だから、それを証明するには結局マハシでもいいし、パオでも行って素直に坐ってご覧なさいと。観えないはずだから。そういうこおとを実験するのが恐ろしいから、結局、嘘の行。本当の行をやれば喜んで行って試してみるはず。試せない。もしこれが間違っていたら、という恐怖があるから、それで人を教えたら大変な天罰を受けるのですよ。分かったふりして教えるということは。だから、「どこでも偉い先生のところに行って聞きなさい」と言ったでしょう。本当かどうか試してみなさいと。

私がなぜそう言うかと言うと、因果をはっきり分からなければ無我は観えない。どれが私でどれがあなたということが決定するのは結局「十二因縁」の中の「tanhā」（タンハー）、執着、アッタ、これをちゃんと観るにはナーマ・ルーパ（心と体）がちゃんと観えなければいけない。ナーマ・ルーパ観えなくしても、過去を何回も繰り返し観て、初めてカルマ（業）というのが観えます。それも言えずして「私は無我が観えた」、これはウソ。恐ろしいことです。だからそういうことをするのは観えないから頭でつくってしまうのですね。

だから、先生のいないところで法を学ぶというのは恐ろしいこと。先生に出会うということは非常に難しいのです。出会っても法ができないときは、自分で曲げて分かったふりをして。私が韓国に行ったとき、インドのOshoという名前の行者の直弟子だという方が、皆を踊らせていたのですね。やあ仏教とはちょっと違うのではと。また韓国で有名な行でメッタ・愛の瞑想法と言ったか、この方はフランスの有名な哲学者の息子で、7年間チベット仏教を勉強して、マシュー・リカードという名前だったのでしょうか。ダライ・ラマが40年前に私に「チベット仏教で一番大切なことは地水火風を観なさい」と言っているわけです。「これを絶対観てください、四界分別に命を懸けてみてください」と。その人と談義したときに「あなたは、それではルーパをどういうふうに分けて観ますか」（と言うと）詰まってしまって、その上に有名なその方のリンポチェがそばに坐っているけど回答できない。私がびっくりしました。そういうすごい衣を着た人でも回答できないという。ダライ・ラマさんが「当然、観てください」という、パオでは初歩の段階の行だけど回答できない。観えないということが歴然と判明してしまう。韓国語で訳したら一般の人に大変なことになるから、英語で討論しました。私は分裂させる気はないので、「訳さないでください」と。本家本元の言っている

---

<sup>1</sup> ānāpāna : āna（アーナ）は息を吸うこと、pāna（パーナ）は息を吐くこと。アナパナサティ、安般念（安那般那念）などともいう。第四禪定に至るまでの集中力を育てるのに非常に効果的な瞑想法。

ことを全然していないのだから。

だから、私が何回も言うように「スターとか名前が売れているとかで判断するのではなく、自分で確かめてください」と。私が40数年前、ダライ・ラマさんと直接お話ししていなければ、こんなこと言えないけれども、まあそういうことで、いくらスターを追い掛け回しても、自分で修行しなければ、また知ったふりして衣を着るというのは、やはり善くないと思います。ブラフマ・ビハーラ<sup>1</sup> (brahmavihāra : 四梵住) の手法を使ってやっているけれど、完全に自分の考えで哲学的にやっているのだから、これは大変なことをしているわけ。それはしちやいけないこと。実際と全然違うことを教えているから。教えられた人たちは将来、頭がおかしくなってしまう詩、とても悪い因縁をつくることになります。心とはすごいもので、そう簡単に哲学で分析できない。そういうことです。

## 迷いの心と修行の方法

---

### 【参加者】

私もできる範囲内で朝、坐って先生に教わったように、あまり肩肘張らずにしているのですが、どうしてもいろいろ迷いとか、分からないこととかあったりして、そういうときは、経を読んだりしているのですが、やはりこういう機会がなかなかないので、ちょっと困るときがあります。そういうときに自分の心をどういうふうに過ごしたらよいのか、アドバイスいただけたら有り難いのですが。

### 【水源師】

まあたくさん比丘・比丘尼が同じ質問をします。そして、私が一緒に坐れるときは一緒に坐ってニミッタ（丹光、禪相）を出しますから、そういう方たちは鏡のように自分の心が反射するから報告してきます。「じゃあ、あなたはこれが必要です」と、私が言います。仏教の最大のポイントはアッタ・アナッタ、我・無我、ここにあるわけです。結局、我というものは存在しないのだけれども、これがなかなか観えない。だって、叩けば感じるし、聞こえるし、目があるし、「なんでこれが無我なのだ」と。

こういうふうに私たちは秒速 30 Atto 秒の時空の中に閉じ込められているのです。絶対そこから出られないように、一人一人がつくられた箱の中に閉じ込められている。ただ、これが架空のホログラムの世界であるというのが分かるのは、自分の心を分析したときに観え始めるのです、その空間から。大宇宙も私たちはたった一つでしょう。無数にあるのですよ。私は前にルーパ<sup>2</sup>の中で見たけれども、今回は護摩焚きをやるときにファーと素晴らしい透明な数珠みたいな浮いてくるのですね。その一つ一つが大宇宙なのです。うわーと広がっていて。マルチユニバース（多くの宇宙）という今、宇宙理論物理学でいう非常にスター的になっているけれども、実際そうになっています。

---

<sup>1</sup> 四無量心（慈悲喜捨）の瞑想：慈・悲・喜の瞑想は第三禪定まで、捨の瞑想は第四禪定まで行ける。

<sup>2</sup> rūpa（色）：変化する物質。

だから、そのときに私と一緒に坐れないときは、あなたが夢を見るでしょう。ヴィパッサナー（観）をやったらよいと思います。ヴィパッサナーというのは観禅です。夢の中で自分を見ている自分は誰か、誰がこれを見ているかということ。「皆さんのよく夢を書いてください」と。迷う場合はこれで心が進化していきますから。もっと詳しく知りたい場合は、やはり合宿で一緒に坐って、そのとき私がニミッタを放射するから、もし心が進化した場合は必ず何か現象を観るはず。進化しない場合は丹田瞑想をできるだけ「膨れた、引っ込んだ」「膨れた、引っ込んだ」と、これだけでも我が消えてしまいます。それを観るだけで無我の状況になっているから。それでどんどん強くしていきます。それをやらなければ、パオでは最大の問題は、いかにして止禅・サマタにもっていくか、これがしっかりしなければ、ヴィパッサナーが完全によく観えないジレンマが発生します。

そういうことで、まず徹底的に何回も言うように「自分の信じる仏があったら仏を一つ決めて徹底的に帰依すること」。そのときに定がマインドフルに直結します。この二つによって智慧、叡智の心が発生します。つまり三十四善心。完成なもの、クサラ（善）。アクサラ（不善）の場合はボヤケたりうまくいかない。これがアクサラ。三十四善心をつくるときに、徹底的に阿弥陀様でもお釈迦様でも二十八仏でもよいから、弘法大師でも本当に信じるものを完全に帰依したら、必ずやマインドフルになっています。マインドフルの心を利用して禅法に入っていけば、必ず智慧、パニャーの力が出てきます。戒・定・慧の定、慧。非常に大切なところ。ここを今回パオ総本山の代表、ウレヴァタさんと談義して、彼も納得しました。ここが大切なところなのですね。ここで一つダンマをつかんでしまえば、マインドフルネスがパーッと強くなるのです。そうしたら自動的にサマタ（止）に入りやすくなります。

その心を持つためには、普通はなかなかできないけれども、素晴らしい先生が書いたご本を読むとか、私の場合、何百回も『般若心経講義』<sup>1</sup>を読んで坐り読んで坐り、納得しながらやって、そういうことに出会わなかった場合には自分を直接、観るヴィパッサナーをやってみてください。ずうっと「夢の中の自分は一体誰か」、ずうっと深く入って30分すぐ過ぎてしまう。そのときウペッカ（捨、平静）の心になっていきます、平安。メッタ（慈）、カルーナ（悲）、ムディター（喜）、ウペッカ（捨）。みんな力を目指しますから、第四禅定の心。だから自動的にそこに行ってしまうですね。

## 次の世で仏教に出会うには

---

### 【参加者】

私は10年くらい前に仏教に会いまして「救われたな」という心境で今に至っているのですが、あまり修行も進まず、ただ日常的に朝坐り、日中、五戒を守る程度にはしているのですが、先生がおっしゃっていたように「人生は夢のようだ」と、だんだん年を取ってきますと、次の人生でも仏教に縁のあるところに生まれたいなど、最近思っています。何か生きている間に、次の人生でも仏教に縁のあるところに生まれるには、どういうふうにしてい

---

<sup>1</sup> 高神覚昇著『『般若心経講義』』角川書店、昭和27年9月。

たらよろしいのでしょうか。

### 【水源師】

やはり今のことを続けていけばよいのではないのでしょうか。そういう気持ちになる方はこの地球上ではまれ。もうその世界に入っているということになっていますから。ただ時空はうまいこといけば、弥勒菩薩の生まれる、その世界にポーンと行けるかもしれないけれど。弥勒仏陀ということは一時、1000年前、大はやりになって必死になってやったわけ。実に、そういう時代も起こるのですね。だから、国の王様とか高貴な方々は寄進して、いっぱいお寺を造ったりして、次の人生で善い法に出遇いたいと。そういうふうに一心にやれば、必ずや出遇えますから。私の体験上、何代か前の王子様のとき一生懸命、寄進したのです。そうしたらちゃんと仏教に出遇えて、そこで天狗になったものだからトーンと落ちて、前のそういうことがあるから、またスーッと戻ってきて、そういうふう人間界に生まれる可能性が非常に高いです。「法を次から次と学ぶ」ということは、あなた自身が成長すれば、周りの人が助かるわけなのです。だから、天界はちゃんと助けるようにと見ています。ただ法を悪用する人は逆に変になります。本当に学びたいと真実で生きていけば、必ず善いことが起こるし、周りの人も必ず善い結果が起こってきますから。不思議なものです。私も本当に死ぬ前に、こうして仏法に出遇えることができ、いつ死んでもよいと幸せに感じています。

## 数字の不思議

---

### 【参加者】

時間が「12」で季節も「12」、十二因縁、浄土真宗で阿弥陀様も十二、「12」というのは時空に関係あるのでしょうか。

### 【水源師】

そうですね。太古のギリシャ文明を見ても、エジプト文明を見ても、時空を「12」で切っています。インドの時間帯線は「12」で割り切れるような64000年が一周期になっています。何ユカといって50何万年か10ユカが一つになるとか、数字を忘れましたけれど、非常に大きな数字なのです。64000年が1ユカになって、32000年その半分がこちらに触れる周期・眠る時間、起き上がって覚めるときの周期が32000年で、ちょうど昼夜の感じで今、私たちは暗い世の中から明るい世の中に行く周期に入ると言われています。

それで、「12」と「13」がまた絶妙で「3」・「7」とか「7」・「13」とか割り切れない数字に非常に深い秘密があって、私がボロブドゥールのパウオンというバジュラテンプル（護摩座に当たる）に入ったときに、ゴールデンポイントと10分の1の違うわけなのです。ゴールデンポイントというのはゴールデンレイショウ (golden ratio) というのがあって、あれはルート5にプラス1を半分で割ったのと1の割合、1.618だったか、対1（すなわち1.618 : 1）。ゴールデンレイショウ、ゴールデンポイント。ABの間で1とすれば、ここが聖なるポイント、ホーリーポイントといっています。それがなんとその場所にやはりボロブ

ドゥールの金剛界と胎蔵界のホーリーポイントにパウオンというお寺がありました。

そういうふうに数字というものは非常に不思議なもので、私から見て一つ一つの数字はやはり生命体みたいに生きているような感じがしますね。特に、プライムナンバー 1.3. 5.7. 9.11. 13.15. 17.19 と、1 億何千回までずうっと出していますけれども、それを図形にしたら景色になり始めるのです。こうなって段階に。整数・完全数に空間ができ始めるのですね。というふうに宇宙の仕組みは数学的に物理学的にまだまだ私たちには分からない。12 という過程で示している、やはり深い何かがありますね。

今回、私は神護寺で天狗になって (笑)「多分、私は真ん中の大日如来様に行くはずだ」と思ったのが、ポーンと落ちたのが阿弥陀様なのです。なんとボロボドゥールで上がった場所は西から押んだわけ。降りるところも「西から降りてください」と言われて、最後は宴会をした場所も西なのです。西は全部、阿弥陀の印を組んでいました。阿弥陀様なのです。「37」と云う数字もまた不思議な数字で三十七仏。真言を唱えて行をやったら、ちょうどその一つの仏像だけが空間になってちゃんと見えるわけ。壊れている中で、それがまた完全な顔で、その仏像の目の高さで見える、遠くで私が行をやっていたわけ。日本から来た方々も、手伝ってくれました方々も大変にびっくりしましたね。因縁というか、1200 年の時空を超えて、まさに私を待っているかのように、ちゃんとそこだけが空間になって、阿弥陀の印を組んだ仏の顔が出ていまして、そのちょうど目の向く方向での、高さの丘のところで行をやっていました。

そのところで「三十七仏を唱えれば、弥勒菩薩がこの世に現れる現象を起こす」ということだったわけなのです。そのパウオンで第九禅定 (滅尽定) を使ったときに「ニッバーナ・ダートゥ」(涅槃界) がサァーッと降りてきて、そこにいた 6 人の方、全部が即身成仏の状態になったのです (その方々は感じられませんかもしれませんが)。ただ、後はナーマ・ルーパ (心と体) だから、ナーマ (心) を発展させなければいけないけれども。真言でいう即身成仏の状態に入ったわけなのです。ただあと 7 回で仏になるかどうかという。巨大な世界最大の石仏といわれるボロボドゥールと、あれほど精巧にメンドゥと組み合わせたとという驚異的な知識があったのです。私がそこに坐ったら石の床が床ではないのですね。水の上に坐って、そこがすうーっと見える感じ。他の時空が観えるのです。仏法というのは底が知れないですね。本当に数字は不可思議です。

## 底知れぬ仏教

---

### 【参加者】

先ほど先生に質問したことの続きみたいなのですが、先生が指導していただいている瞑想の中のヒーリング瞑想のときにも、私はでかい目が観えると話をしているのですが、何となく自分に合っている気がして、タイで比丘出家したときの瞑想が全然違って、仏教の友だちからすると「それは仏教の瞑想ではないのじゃあないか」と言われてはいるのですが、それをやっていると前からその目が観える他にキーンとかシーンとかいう音が続いて、今も実は続いているのですけれども、日常のことを始めても聞こえるので、別に耳鳴りではない

と思っているのですが、それを聞いている間は気持ちのよい状態が続くのと、お腹に意識を置いていたタイの瞑想と額に集中してからの自分で大きく変わった一件というのは、つまりなことは全然気にしなくなって、何か困ったことが起こっても、これは何とかなるだろうという気持ちになって、今まではちょっとしたことでびくびくし、戒律を違反しているのではないとか、変に考え過ぎていることが全くなくなりました。

それはそれでよかったと思いながらも「これは仏教の瞑想ではない」と言われると、「そうなのかな」と、このまま続けていてよいのかということなのですが、先ほど先生から「このまま続けてよい」ということだったので、これをずうっと死ぬまで続けていってよいものなのか、あとで他に何か出たらやめて別のものに変えるべきなのか、というところを教えてくださいたいのですが…。

#### 【水源師】

「それは仏教の教えではない」という方は阿羅漢ですか。

#### 【参加者】

そうではないですけども。

#### 【水源師】

じゃあま、相手にしないで無視した方がよいですね。その方は何年くらい修行していますか？ 大体、本を読んで「仏教とはこういうものだ」と、頭で決めつけてしまうわけなのです。先ほどもお教えしましたが、仏教は底が知れないのです。こういうふうなタントラヤーナ（密教）の秘伝があります。これは仏教の教えではないと。これがスリランカで、お釈迦様が最初に来たときにもう伝わった法なのです。これは宮殿の王族しか分からない法なのです。まあ本当はお見せしようとは思わなかったけれども……。これは私のためにつくってくれたタントラヤーナの秘伝なのです。これを着けてタミルの人が鉄砲を撃ってきても当たらない。すべてを回避する、こういう不思議な力を持つ法があるのです。一般の人はお坊さんでも全く分からないから、すぐ「法ではない」と、そういうくだらないことに走るけれども、そういう方はまず自分で坐って悟りを開いて阿羅漢になってから言った方がよいですね。

なぜなら、達磨大師様以上のことが分かる、ということをお話ししているのですかね、もしそうでなければ自分自身も間違え、人にも間違えた教えをしてしまうという、とても恐ろしい、最も造りたくない最悪の因縁を造ります（法を曲げる罪）。まずアッタ（我）・アナッタ（無我）という過去も観える行をして、そういう因縁を分かってからのまず話だから、本当に仏教というのは底が知れないですよ。というのは今まで私に明快に「ボロボドゥールが密教の聖地である」と言った方は一人もいない。なんとそこにナーガールジュナ様（龍樹菩薩）の第一弟子・龍智、金剛智、不空菩薩この3人を送っているのです。

今回もミャンマーでウ・パンディッタという 758 歳の人に確認するためにちゃんと出会ってきました。一番の人は 1046 歳。この人たちはドアを通して入ってこない。時空でパッと空中から出てきました。ホワイトカシナ（白遍）の力を持っているから。まあ嘘だと思っ

ようね (笑)。だから、ナーガールジュナ様が 2AD に生まれて 8 世紀に死んでいるのです。600 年間のナランダ大学の学長やったわけなのです。だけど、通説では二つの名前で死んだときと、最後の名前が一緒だと。常識的な回答になっているのだけれども、こういうふうにも実際に生きている人を目にすれば、まあ信じないでしょうけれども、まあそういう秘法もあります。どういうふうになるか、その秘法も教えてもらいました。ウ・コビタ比丘が生まれたのは西暦 AD 968 年、場所もお母さんの名前もちゃんと分かっている登録されています。だから、バガン王朝ができる前に生まれているのです。証明できる記録もちゃんとあります。

でも、一般ではあまりのことにウソじゃあないか、と逮捕するために政府が怒ったと。そういうことはあり得ないのですね。時空が 100 年、200 年なれば神通の力が出てくるから観えるわけなのです。私がバガンで 28 日に行を終えて 29 日にミンブ<sup>1</sup>に車で走ってきたときに、No.4 セクレタリー 87 歳が「よく来てくれました。あなたのお出でになるのを待っていました」と。「なぜだろう」。この 4 人の方は一人一人 1 回位、年に 1 回しか出ないわけ。私が着いたら 4 人全部出てくるという。私は期待していなかった。そこで瞑想をしてどれくらいの力があるかどうか調べに行くつもりだけど、いつ出てくるか誰も分からないわけです。

だから、結局ちゃんと私が 1000 年前に消えた法灯を燃やしたということを知っていて、出てくるということ。それどころか、ちゃんと私のために面接してお話しして、私はお辞儀しながら、この額を足にパンと付けたのですよ。それで私の力でルーパ<sup>2</sup>が分かるから、普通の人間の物質か、他の物質に変わっているかどうかという。やはりバイブレーションが違っていました。パオで質問されるとき、天空の時空を観たときに「天空のルーパを説明せよ」ということになる。実際に観たかどうか、事細かに聞かれるのですよ。私がサササーと「天空の物質と地上の物質は違いますよ」と、ずーっと説明するわけなのです。そしたら「あなたすべての経典、読んでいるでしょう？」と。そういうふうに見てしまうのですね。

#### 【参加者】

先生こここのところに意識を集中して瞑想しているときに「キーン」と音が聞こえてくるのですが・・・。

#### 【水源師】

あれは観世音菩薩で観・世・音なのですね。観るでしょう世の中。聞くでしょう。その二つの現象の力を持った神通の方、観世音菩薩のこと。「一体となっています」ということです。

#### 【参加者】

私が観る、でっかい目が観世音菩薩の目だということですか。

#### 【水源師】

観と音、だから二つ。そうなります。だから、そのままずっと続けてください。それで

<sup>1</sup> ミンブ (Minbu) 県：ミャンマー中部のマグウェ管区に属する都市。

<sup>2</sup> rūpa (色)：変化する物質。

結局、体験がない場合は経典に頼るしかないから。経典というのは体験がなければ読めないようになっています。つまり、ジャーナ（禅定）を持たないで、瞑想法を書いてあるのをいくら読んでも分からないわけ。ジャーナを持ったときに瞑想法を読めば、これがどうなっているかとすぐ分かる。ほとんどの経典はぶつぶつ抜けている。抜けたところを自分なりに考えてしまうから、おかしなことになってしまう。体験があれば、これ抜けているとすぐ分かるわけ。だから、今まで私が読んだ『清浄道論』のエステバガン見ても、ぼつぼつ大変、抜けている。意味が分からないから、1000年の間に抜けてしまうのでしょうかね。だから、本当の行者でしか回答できないことがいっぱいあります。皆さん、本を読んで皆分かった、これは何も、分かっていないということ（笑）。そういうことです。

## 身心一如

---

### 【参加者】

私はマッサージをやっているのですが、体が硬かったりとか凝っていたりすると、心の凝りというのに関連しているような気がするのですが、一概にそうではないと思ったりもして……。

### 【水源師】

全くそのとおりです。身心一体になっていますから。やはり心が悲しければ体も壊れます。心が楽しければ体も健康になります。傷ついた人には必ず愛語（優しい言葉）を掛けて、いっぱい愛してあげることです。心でメッタ（慈悲）の力で、そのバイブレーションが体に伝わってくるから、体も回復します。やはりマッサージするときも神仏の力でメッタの力をいっぱい入れるようにして、私はあなたを心から尊敬して愛していますよ、とすれば体が分かるから。個人的ではなくてね、大きな意味で、命のそういう意味で、非常に宇宙の真理の深いところでやっていけば、神仏の滔々たるエネルギーが入ってくると思います。

だから、私はエネルギーを出す力があるから、以前、個人的におばあちゃんをポイントでポーンポーンとやっていたけれど、とつても自分のエネルギーとられるから、天界のエネルギーを針金みたいに押し始めたら、あんまり自分の力を使わなくなりました。それでなければ、自分の力でやればエネルギー相当とられるから、非常に疲れるはず。それが凝り固まって、それを発散する力がなければ、今度、本当に体がやられるから、一番よいのは自分の体を通して宇宙的な力をスーッと入れてしまえば、楽々とできるはず。

### 【参加者】

その話は聞いているのですけれども、実際どうしたらそのようにできるでしょうか。

### 【水源師】

やはり瞑想して心のカーテンをつくらないこと。段々できます。

## 悪を善に転ずるダンマの力

---

### 【参加者】

人間は五蘊、色・受・相・行・識で構成されていますが、人間がなくなった場合は肉体がなくなって、識がなくなって、あと四つは残っているのですか。

### 【水源師】

人間が死ぬときは死ぬ5秒前に、もはや「セックスカラーパ」と「カーヤカラーパ」と「ハダヤカラーパ」、この三つがもうほかの天界に移っています。「男か女か」「体のカラーパ」「心」、この三つがまずお母さんが受精したときに、もはやその前に入っているわけです。受精するかしないかは、その後で決定されてしまう。すべて因縁です。それもダンマヌパサナー（法随観）でちゃんと観えます。十二因縁のときにこれを観なければ通過させません。そうですよ。非常に細かく見せます。だから、因縁はどういうふうに働いているか明快に観えますし、宇宙的なものであるから因縁を消すことはできない。ただ因縁をいかにして善い方向に向かわせるか、ということはダンマ（法）の力によってできます。

だから、過去にいかにも悪い間違いを起こしても、それを善い方向に転換させるというダンマの力がありますから、生きとし生けるものすべてが善い方向に迎える可能性があります。そうになっています。だから、これは私一人だけが体験しているわけではなく、ミャンマーではパオセヤドーと最低50人の行者が私と同じ体験をしていますから。今はそれが非常に難しくなっていて、あまりそこまでいかななくても終了したということにさせて Teacher's Position に就けていますが、しっかりやった場合は、そこも完全に聞かれるし、また観えますね。

私の場合、疑われて、事細かに微細に先生より質問を受けました、だから、なぜこんな早くできるのかと、徹底的に人の倍以上にスピードで教科をやらされたから、倍以上のスピードで行っちゃったわけ。それで、その後で禅というすごさが分かりました。だから、今は「禅を学ばなければいけない」というサマタ（止）のことが、ミャンマーでは非常に言い始められています。

## 法を求める大切さ

---

### 【参加者】

よくいわれるのが、自分の心が変わると世界も変わるといわれるけれど、実際、自分たちが瞑想をして世界がどのように変わるか、いまいち実感しづらい部分がありまして、それで周りがにこやかになっている場合もあるのですが、実際、自分の父親母親を見ても、仏教をまだインチキくさい目で見えていますし、本人たちも心の問題で苦しんでいるのですけれども、仏教のフレームワークで解決できる気がするのですが、やはり縁がないというか、人間はその人の因縁は変えられないのか、その辺はどのように考えたらよろしいでしょうか。

## 【水源師】

やはり善い因縁に出会えば善い方向に向かいます。悪い因縁に出会えば悪い方向に向かいます。だから、『マンガラスッタ』（吉祥経）の中に「善き友に接しなさい」と、「愚者に接しないように」、つまり、善い友だちに出会えば善い方向に行くし、悪しき友に出会えば悪しき方向に行くと。私が願えば全宇宙が変わるとか、仏教は私・アッタ（我）はないわけなので。アッタはない、アナッタ（無我）だけ。だからアニッチャ（無常）・ドウッカ（苦）・アナッタ（無我）。アニッチャ・無常、常が変わっていきます。それからドウッカ・苦の世界、必ずルーパ<sup>1</sup>が滅びるから、発生しては消滅、発生しては消滅と、永遠に存在するものはないのです。だから、体が滅びていくというのは病気になるか、死ぬとき真理を知らないときに「アーこれで私はこの世で終わり、マーどうなるのだろう」と、パニックを起こすわけでしょう、これがドウッカ。

ところが、真理を知った場合には「なんと素晴らしい、私はもう私はあの世に行く決定も見ているし知っているし、早くいきたい」と。死ぬのが怖いどころか、早く終わりたいとなるわけ。それは涅槃を観た場合、「早くいきたい、この世はもう嫌だ」と。そういうふうに、あなたが本当の真理の中で生きていけば、必ずやその善い影響を与えます。もし、お父さんお母さんが信じなくても、あなたが法を求めていけば、その力によってお父さんお母さんが救われる可能性は大いにあります。つまり、お父さんお母さんという名前であるけれども、あなたは善き友になるわけ。善き友と一緒に暮らせば、あの悪いデーバダッタでもお釈迦様の傍にいつもくっ付いていたから、預流果の位に上がったわけなのですよ。

だから、私もこの世で最大の幸せは、こうして法に出遇ったこと。そして、皆さんがこうして真剣に聞いてくれると。これはすごいことなのです。なぜかといったら、パオセヤドーも言っているけれど、「1000 人いて 1 人だけ聞いてくれればよい」と。ここには 19000 人の価値があるわけ、19 人いるから。それも障害なしに同じ言葉で話せるから、すごいことなのです。これで通訳を入れれば問題がある。通訳している人が本当に悟っている人なら問題はないけれども、あり得ない。だから、自分で想像して言うてしまうからトンチンカンなことが発生しやすい。ところが、翻訳者は訳ができるけれども、実態が知らないから何を言っているのか本人も分からないはず。

ジャーナリストでオーストラリアの英文も卒業しているのだけれど、この人に通訳してもらったらトンチンカンで話が進まなかったわけ。カンボジアで小学校 4 年生の知識しかないけれども、その人に通訳してもらったら、仏教の知識があるからツーカーで伝わっていくわけなのです。これが現実なのです。だから、分かった人が通訳すると、いかにタイトルがあっても、すごい勉強をしても分からない人が通訳した場合にはトンチンカンになって全然うまくいかない。だから、私が非常に幸せに思うのは、仏教の国に来て仏教の方とこうして日本語で同じ言葉で話して仏法を伝えることができるという、私にとってこれはすごいご褒美ですね。みなさんが一人一人、少しでもこのバイブレーションを感じていければ、必ずや人間界は間違いないし、仏教国に生まれる可能性が非常に高いから、私も大安心。そういう

---

<sup>1</sup> rūpa（色）：変化する物質。

ことです。

## ボロブドゥールは世界最大の密教の聖地

---

### 【参加者】

「三十七仏」について。

### 【水源師】

それはチベット仏教では非常に大切な教科で、韓国のお坊さんがダルマラサに行ったとき、「こればかりしか教えられなかった」と。というのは正解なのです。これをやれば、必ず将来、弥勒仏に出遇える可能性があるから。ダライ・ラマさんが非常にボロブドゥールに来たかったわけ。意味があるわけなのですよ。というのはボロブドゥールで1000年前に、この行者がチベットに渡って今のチベット仏教をつくったから、その流れなのです。弘法大師様はその200年早く恵果様から教わって、(真言八祖によれば)恵果様は不空菩薩様から教わったでしょう。この方はボロブドゥールから来ているわけなのです。だから、ボロブドゥールは「行をやる本当の世界最大の密教の聖地」だったわけ。すごいところだったわけ。

そして、風穴が四つあって、そのエネルギーの使い方。それから石の組み合わせで太古の行を持っていたわけね。終わったら、本当にインカ文明とかエジプト文明とか教わらなくても分かるくらい石の力というのを完全に体得しましたね。その力で動いているということが。行をやったら始動し始めたから、結局ナーマ・ルーパ(心と体)、物質と心が一体になったとき物質でも作動すると、1200年の時空を超えてピラミッドが動いたのだから。それは驚嘆しましたね。

だから、人間の頭では現代の頭では想像できないし、人類学的に2000年前は全世界1億しかいなかったのです。それも本当かどうか分かりませんよ、いわれているだけで、今は70億だけれども。その1億の中で、その巨大なものができるのかなあとか、どういう力でこのエネルギー体でつくったか、訳が分からないですね。マチュピチュにしても巨大な200トンの石を2600メートルに上げて、ただ知らないでおしまいなのだけれども、そこが現代科学のおかしさになってくるわけ。よいことばかり言うけど、本当のことは全然分からない。知らないで逃げちゃう。そうでしょう、実際、物があるのだから。

ピラミッドがどうしてできたかと、理論上で慶応大学の素晴らしい学者がやったら、やはりできないことが分かった(笑)。日本はやるから偉いですよ。外国はじっと待っているだけ。やはり仏国の力と言うか、ごまかさないと真面目なのです。だから、何とかこの日本は本当に世界の心のリーダーになって、なんとかできないものかと。過激派が戦後も戦前も変なこととして迷わしているけれども、なんとかこの素晴らしい仏国ができないものかと、私は日夜、考えて、いかにして早く皆さんが法を得るかということを考えているのだけれども。それでなければ、いつまでもアメリカ親方では困るでしょう。誰か様方に悪いけれども……。



ボロブドゥール・ピラミッド

## 花の殺生

---

### 【参加者】

日本に華道がありますが、花を切るのは殺生になるのでしょうか。

### 【水源師】

比丘は一切しちゃいけないことになるけれども、やはり畑を耕して物を食べていかなければいけないという、北伝では仕方ないのですよ。ただ、私は池に咲いている素晴らしい蓮の花を見て、それを切って仏に捧げようという気持ちがあったけれども、生きているなあと思って、これは殺生だなとやめちゃった。ただジーンと観ていた。そういうことで、それもあまり深く考えないで。護摩焚きときは、やはり花が必要だったから、そこら辺にある花をさっと採ったけれども（笑）、そりゃあ仕方ないですよ。

## 社会の風と家族の関係

---

### 【参加者】

少し古い話で今も悩みを持っているのですけれども、子どもが中学校のときに、いわゆる教室崩壊というのでしょうか、全く授業が成り立たない状態で、ところが教育委員会は全部

ずうっと隠していて、そのときたまたま海外で責任者をやっていたものですから、戻ってこられなくて、結局、子どもはずっと学校に行かずに、中学校3年間、行かなかったのです。全部いわゆる補修をさせていたのですが、人間的にはちゃんと育ててくれて、普通の社会人になってくれているのですが、そのときに私は子どもがどういう状況で学校に行っているのか知らなかったもので、子どもに対しては海外から電話をして「学校行け。学校行け」と言っていたのですよ。それがどうも本人のカルマとして残っているみたいで、何かあると「ちゃんと分かってくれない」と、今でも言われているのです。それが普通のときは何もないけれど、私の対応が多分、間違っていて理解していなかったのだらうと思うのですが。当時、言っていたことが、何かそりが合わないときに起きてくるので、なんとかそれを回復してやりたいなと思っているのですが、何か解きほぐす方法はないものかと。

### 【水源師】

とっても大切なことです。というのは、つまり息子さんは社会の風を受けてそうになっているのです。というのは、韓国で修行が進まず非常に苦しんでいるお坊さんがいて、その原因は何かと言ったら、実は私のお父さんからこういう目にあって、「やーあなたね、そういうけれども、その時代でお米食べられる人は滅多にないのですよ」。私が17歳のときに朴大統領の招待を受けて大坂から行ったときに、韓国旅行したときはお米全部、食べられる状態ではなかったわけ。必ず半分、雑穀を入れて半分お米だった。そういう状態を知っているから、事細かに説明したのですね。「アーそうだったのか。それでお父さんはちょっとしたことで頭に来て罵倒してしまったのか。実は社会の風でそうになっていた」ということを理解した後は、この方は修行がサーッとうまくいったのですよ。

現代の学校問題も実は本人ではないのです。社会的な大きなゆがみのひずみがそこに来ていただけであって、体制の中でほとんどの人はそれが分からずに親も子も対立してしまっているわけだ。ちゃんとももの見方、考え方が分かっちゃえば問題ないわけ。社会はそうになっているから、まともに受けなくて、それを捨ててしまえばよいわけ。なぜかというと、私は小学校でビリだった。いつも遊んでばかり先生のいうこと聞かずに、立たされ坊主。あるとき、私のお母さんが兄弟に私をかばうことによって、いじめられるわけ。その辛さを見て、サーと勉強したら今度はトップ高校。そしたら皆、啞然とするわけ。そういうことで勉強できるとか、できないはあんまり問題ではなく、心の問題だから、息子さんは誤解があると思います。誰も真実を教えてもらえないという、特に日本では東電もこのとおりでしょう。戦前もそうでしたでしょう。そういう文化のひずみで誤解し合って家庭崩壊に向かうということが非常に大きいから、時間があれば息子さんに昏々と説明してあげられるけれども、聞いてくれるかどうか分かりませんが、確かに教育界はそういうこともありました。

私も公務員だったから何にもしなくて毎日、出勤すれば自動的によいわけなのです。ところが、何か新しい善いことをしようとして失敗したらクビ、駄目なのです。だから誰も何もしない。という体制的な問題もあります。黙っていたら昇進してお金もらおうという、何か善いことを言って失敗したらクビになる。誰がしますか、誰も黙って何にも言わない。会議・会議で黙っていれば恩給もらえ、よいことづくめです。この現状を今、日本の皆さんはよい

と思っているわけ。というのは、人生は一回限り信じ込んでいるのだから。これで次の世どうしますか。本当にあなたは正当にお金を受けてもらえる立場にありましたかと。はっきり言って、人間界に生まれませんよ。だから、「仏もない」「何にもない」「何にもない」「すべてOK」という思想が大流行なわけ。「死ねば皆、天国」という。

だから、本当に宇宙は皆さんの進化を待って存在しているのです。この大宇宙は本当にカルーナ（慈悲）の世界でできているのです。このカルーナから外れた場合にはカルーナに戻すための責任を取らせるわけ。だから、地獄界に入った人のこと言ったでしょう。大変な苦しみ受けて、今回6回目の比丘の生活になって成功して、何とかすごい世界に行くけれども。いったん墮ちたら大変なのですよ。だから、私の今の使命としては、この日本に生まれた方、誰も地獄に墮とたくない。地獄だけは行かせたくないと。それを願っているのです。それが本当にあるのですよ。特に、法を曲げて人に教えたら大変なことになるから。人も騙すし自分もよくないし。ここで一番大切なことは正直に見て体験したことを心から話していけば、必ずや善い結果が出てきます。これが仏法です。「この仏法というのは愛しかありません」。その愛をしっかり体得した場合にはバイブレーションで必ず善い結果が出てきます。

それが知識しか分からないから、これでおかしなことになるのです。本を読んで継ぎ合わせるから。だから、私の娘もカナダで高級官僚になってトップクラスで、私にバチバチ叩かれるから、もう頭に来て本を読んできてバツと言ってくるが、相手にしないけれども、そういうことによって私の場合は厳しくやるわけ。一回も失敗してないから、バチバチ叩くわけ。そしたら何かこの頃よくなり始めた。これが結局、官僚的な考えで自分は偉いんだと、本当の愛も分からずにやったら、社会に対する破壊は大きいものでしょう。特に部長クラスで全オンタリオ州を握る人間になっているのだから、よほど厳しくやってやらなければ、普通の私みたいなバカだったら何でもよいのだけれども。だからま、そういうことであまり心配せずに、あなたも坐られて、スーッとよい笑顔になっていけば、息子さん必ず真似ます。

#### 【参加者】

私もずうっと胸の中に納めていて、皆さんの前で言えることができ出たような感じなので、ここで話しじっくりやってみようと思います。

#### 【水源師】

そういうことによって周りの人も段々助かりますし、本当に生死はないのです。次から次と流転するだけだから。本当にそうなのです。だから迷わずにしっかりと法をつかんで、法をつかめばつかむほど、健やかな綺麗なエネルギーが出てくるから。それで言わなくても分かる。だから、私がミャンマーに行って、どこに行っても、そういうスーパースター比丘とでもツーカーでOKになっていきます。行者は皆、お互い分かるのですよ。普通の人でも「うちのお父さん善いことしているな、にこにこしているな」と、楽しそうだなとなったら真似したいと思うから。

過去のことも実は社会的な問題であったとか。いまだに水俣病で苦しんでいる方々、それから福島を宣伝はするけれども政府は何もしないと、お金は他に回すという、こういう現状

をいかにして本当に解決していくかと。泣き寝入りでほっとくというのは、仏法から外れていますね。でも、この日本はこれだけすごい血と涙と汗でつくった国なのです。この素晴らしい建物も日夜、働いて真面目に真面目に。だからこうして世界に誇るべきものを持っているのです。せっせせっせと働いて。これは誰からもらったものでもないわけなのです。敗戦によって飯も食べずに餓死者を出すところで、ここまで来たのだから。

だから、よいところもいっぱいあるわけなのです。それをリビアとかシリアとか宗教論を唱えて喧嘩ばかりエジプトみたいになってしまう。だから、よいところをいかにして合わせて昔こういうことがあったけれども、今は公害もない、よい環境の国になっているでしょう。韓国もどうなっているか分からないけれども、今、中国は大変でしょう。そういうことで、息子さんが訳も分からずに、あなたも海外に行って国のために人のために働いてこうなっているのだから、息子さんにも理解してもらって。日本はパスポートを持ってどこでも行けるでしょう。お金もよその国の外貨より高いし。こういう国は滅多にないですよ。

## ヴィパッサナーの極意

---

### 【参加者】

質問というのではないのですけれども、感想という形で。本当に先生のお話を聞いて幸せに感じます。先生との出会いは半年前の合宿に参加して、そのときは仏教の本が好きで、いろいろ読んだのですけれども、サラリーマンなので、そういった正しいことを必ずできるわけでもないし、悩みながら過ごしていたのですが、先生のお話を聞いて、先生のお話は非常にダイナミックで本当に仏教の先生が話す内容ではないような（笑）ことが非常に多くて、とても楽しく聞かせてもらっています。

瞑想なのですからけれども、毎日ではないけれども、なるべくやるようにはしているのですけれども、ちょっとした変化みたいなを感じているのは、自分の感情、特に怒りとか、そういうものが見えてくるといいますか、質感としてポッと湧いてくるのが非常に見えてくる。自分とは本当は小さいものだ。ほとんどは生活していたときに一時的感情で自分がほとんど動かされているのだなということが、最近、実ってきたという状態です。

### 【水源師】

やあ素晴らしいですね。そこですよ。その怒りというのは素晴らしくてね、パッとそこをじっと観るのです。心の中をじーっと。一体これは何なのだろうと。これがヴィパッサナー（観）の極意。だからそれ続けてください。だから坐れるときでよいです。八正道は聖者の位でできることであって、それをただ目指しましょうということで。それを聖者じゃない人がそのとおりやろうとしたら、それは無理。私もちょっと無理みたい（笑）。だから、まあ気楽にその方向で進みましょうと。やはり、そこよいですね。なかなかそこよいですよ。パオセヤドーだったら「Good! Good! Good!」と言うらしいですよ（笑）。や、素晴らしい。そこです。そこがアッタ、アナッタをつかめるチャンス。

## すべてがサティ

---

### 【参加者】

うちは田舎で、坐禅で集中できないときは、外の音を聞きながら坐っていると、すごく気持ちよいのだけれども、いかがなものでしょうか。

### 【水源師】

それも瞑想法です。瞑想というのは呼吸、アナパナ（入出息念）だけではないのです。料理しているでしょう。好きなことをやっていたら1時間も10分くらいにしか感じない。逆にそれが非常に楽しい。食べさせてもらっているときは何で1時間もかけてと、早く食べる方がよいのではないかと思うけれども。食べる方は本当はつまらないことであって、おいしいものを作ろうという気で1時間30分かいたら時間は1分か2分しか経っていない感じがする。集中できるから心もすっきりと。「なるほど、これが奥様家業の醍醐味か」と（笑）。

ということで素晴らしいです。音を聞きながら音に集中する。それもよいのです。だから華道・茶道もよいし、少林寺では坐らせない。少林寺は徹底的に武道をやらせます。それで最後に合格したら坐らせる。つまり心と体の違いを完全に理解させた後。生半可に坐らせない。そういうことで、すべてがサティ（念）の発生を求めるから。それでマインドフルネスになっていくから。素晴らしいです。よかったです。

## 密教の密教たる所以

---

### 【参加者】

経はマントラ（真言）の話が少し出てきたのですが、マントラというのは私にとって地獄みたいな部分しか捉えられないのですが、何かもっと深い意味があるのでしょうか。

### 【水源師】

意味があります。マントラというのは、お釈迦様はパーリー語でお話ししたわけ。お釈迦様の言葉には一つも濁りがない純化されたものであります。音楽で言えばベートーベンとか最高級の言葉を使っているわけなのです。その音の組み合わせだけでも心に響くわけなのです。だから、これが現代のタントラ（密教）という行法につながって、これだけすごいことが起こってしまうわけなのです。結局、先ほど私がお見せしたスリランカ、タントラヤーナの極意は、あのときタミル独立戦争では仏教徒を殺しに来たのです。タミルの方は、あれはヒンズーのタミルではなく、ヒンズーの場合は来世があるから人を殺したくないわけ。西洋の教えの影響を受けたタミルなわけなのです。キリスト教は現世だけ、イスラムと同じで敵を殺しても天国に行けると。これは全くのウソです。絶対、行けません。

なぜかといったら、その昔、天皇陛下の教育を受けて南京虐殺に加わって運よく人を殺さなくても、現世で大変な目に遭っているのに、同期が人を殺して全部、地獄に墮ちているから。ウソの神道をやったので、本当の神道をやった方はしないと思う。作り上げた神道であ

って本当の神道ではないから。神があつて絶対、落ちないはずなのに全部、落ちてしまったと。彼は24時間、苦しめられるから同期が落ちているの分かるわけ。

お釈迦様の本物の言葉だったら、そりゃあ宇宙の究極のバイブレーションだから善いことが起きますよ。これを身に付けたら本当に鉄砲が当たらないのだそうです。お坊さんが真っ先に殺されるのです。今、タイでも悪いイスラムの人が来て南方の方で、お坊さん50人殺すのですよ。お坊さんは抵抗しないから恨みなく死んでいけば、またすぐに人間界に生まれるから。でも、スリランカのタミルでこういうことが起こったときに、これを防いだのはタントラの力のようです。私が法を聞くときに近くで見ていたら、スリランカの大統領は手にバジュラ（金剛）の五鈷を握っていました。だから、これは隠れた秘法で一般的には魔術みたくに見えるから言わないことで、実際には深い不可思議な力があるみたいです。だから、天皇家のお寺の中を拝見させてもらったら、ちゃんと護摩壇あつて今でも病気になったら、すぐにやりますからね。一般的にはそれは邪道だというけれども、トップの人は皆それをやっているわけ。

そういうことで、私は行が進まない人にはマントラを教えます。ミャンマーでパオ全部、終えたのだけれども、「修行ができません」と。空の世界に達することができないと。「私は4回動物に生まれて、後の6回は人間でした」。パオはそこを全部、観せるからね。はっきりと観なければ通過させないから。行者の間では簡単に言うのです。言わない場合は何かあるから、追求しないで放っておく。結局、真理を知りたいから、「どうしましょうか」と来るのです。「その6回の前世はすべて女性です」、「うん。よし、じゃあ坐ってみなさい。私がニミッタ照射するから、何が観えるか言ってください」。それくらいのクラスだから「あなたはメッタ（愛）の行が足りませんね。愛の行が。これには『オンアロリキャソワカ』というマントラがあるから、数珠を使ってこうしなさい」。なんと密教の数珠の使い方を知っているのですね。タタターッてびっくりした。私は今分かったくらいで。「これを1000回やってください」、「分かりました」。それを聞いていた他の行者も同じく見えるから「先生、私もその回答を同じく納得します」そうなるわけなのですよ。

だから、お釈迦様とか素晴らしい聖者の言ったことには、1000年たっても2000年たっても力があります。ただ、それを本当の行をしないでやった場合には、これはちょっとインチキくさい結果になって人を騙すことが発生するからね。誰も彼もが解析できるということではないから、そこには危険性があります。だから、そういうことで黙って伏せた方が問題ないということになるのではないですか。

## 心の進化のため無理しない座り方で

---

### 【参加者】

1年くらい前に瞑想の合宿で頑張つて坐つてしまつて坐骨神経痛になりまして、今でも完治しているのではないのですが、一部分普通にしていっても痺れていて、整形外科にも行って「それは坐禅の仕方が原因だ」と言われて、あまり坐らないようにしています。自分でよくなつてきたなと思つて坐ると、また痺れが出てきてしまつて、なかなか取れないでよくなつ

たり悪くなったりという状態が続いています。どういふふうにしていったらよいでしょうか。

#### 【水源師】

カナダの場合、私は無理に坐らせない。ソファがあるからソファで坐させます。坐れる人は座布団。カナダでは、こういうふうに坐れる人は滅多にいないです。無理をさせたら駄目なのです。心の進化を願うから生活体系に合わせて教えています。あなたの場合はソファにゆったり坐って痛くないポジションでやられた方がよいと思います。

そういうふうなお坊さんもたくさんいました。ただ結跏だけというのは確かによい利点はあるのですけれども、そのときは正式に教わればよいけれども、正式に教えてもらわない場合、そういうことが発生しますね。お坊さんが体験してなくて見よう見まねでやっているとそうなります。

#### 【参加者】

小さいころから股関節が硬いので、ちゃんと坐れなくて、斜めの感じでやっていたらおかしくなっていました。

#### 【水源師】

そういうときに、ちゃんと指導してもらったら、無理はしたらダメなのです。私はこうして今、結跏できますけれども、若いときは硬くて死ぬほど痛かったけれども、自然にやっていったら、こうなってしまうから無理しないこと。無理しない。ゆっくり。だから、今は一番体に合ったポジションのソファでもよいのです。ただ眠らないこと。私が椅子で坐れば眠ってしまうのです。坐れば絶対に眠れない、だからこれで坐ります。一番よいのは体に合わせた方法で坐っていけば、心の方で体をだんだん治してしまうのですね。だから、若いときはこんなことできなかったけれども、今はとって年をとっていますのだけれども、ちゃんとこういうふうにできます。

だから、心が進化していけば自然にできていきますから、あまり気にしないで無理しないこと。瞑想は絶対、無理はいけません。無理したら必ず心に障がいを起こすから。瞑想は心の進化を狙うのであって、坐る体型の美しさではないのです。美しく坐るとか、あれは全く邪道。坐り方はどうでもよいわけ。南方では結跏ではなく半跏でやったり、こういうふうにやさしく坐ったり、これで十分。ただ長く集中できればよいことであって、南方のお坊さんには椅子にゆったりと坐っている人もいますね。私はすぐ寝ちゃうから、あれはできません。無理しないで、自分の一番楽な体勢でやってみてください。そうしていけば、骨の形も実は変わっていくのです。この心の力というものはすごいもので、DNA も変える力があるみたいです。

## 呼吸法と観法

---

### 【参加者】

昨年、『サティパッターナ』での四つの方法があるというお話でしたが、呼吸をしながら体全体を見るといふか、体全体で呼吸をしているとうまくいって禅定のような状態になっていく感じがするのですが。

### 【水源師】

それは正解です。実は本当の極意は足で呼吸するみたいです。丹田ではなく、もっと下げて足のここで膨み縮みと、そこまでいけば仙人の位に上がるみたいですよ。そのままずっと続けてください。それでよいです。私が一晩でできた理由はチッタヌパサナー（心随観、禅・念仏系）を数十年やっていたから、ダンマヌパサナー（法随観、パオ系）がすぐできたのです。ヴェーダヌパサナー（受随観、ゴエンカ系）は7日で終了してしまったわけなのです。最後の一つも自動的に心が分かったから、すう一つといっちゃったと。そういうことです。だから呼吸法だけでも進化していくはずですよ。

そして、それに飽きたら観法。どこからこの怒りが来るのかと。マハシの場合は痛みを起こさせて、この痛みはどこから来るのかと、これはドウッカ（苦）の方法だって。私はこれをあまり進めない。一番よいのは自分自身で最も嫌な例えば怒りがどこから来るのかという手法をとるのが早くいくみたいです。それを今回、私の弟子が言うものだから「そこを観なさい」と。今回、相当深いところまで進化していましたね。一人一人、一応、状況が違うから、こういうふうにしていけば、私の場合、非常に善い結果を出していますけど。だからインタビューは瞑想するとき非常に大切です。

## 行が進んだ師のオーラ

---

### 【参加者】

今、質疑応答している間、先生の方を見ていたらワーンと全体が黄色・金色になって、先生が座っているあたり一帯が全部金色みたいな感じに観えてきたのですが、そういうのはニミッタなのですか、それともオーラになるのですか。普通オーラという言い方をしていますが。

### 【水源師】

やはり行が進めば、そういう光を出します。やはり私が最初ダライ・ラマさんに会ったときに、こういう金色の光を出していました。もちろん彼も本物ですけども、ただそれをあまりにもスターにして、そこに行けばすぐにニッパーナ（涅槃）に行ける、それはない。努力しなければ。結局、皆さんもずっとやっていたら、私と同じ様な光を出すはず。カルマの違いだけであって、心は一緒なのです。体験だけが今までの時空が違うから、良い方向にカルマ持って行けばそうなりますから。何も私が素晴らしいという事ではなく皆さん誰もかれもが素晴らしいものを持っているわけ。

**【参加者】**

それはニミッタの光ではないのですか。

**【水源師】**

いやニミッタではないです。オーラの光です。パチパチと光が空中に反射して。私の頭は黒いのだけれどもたまには真っ白く見えるはずです。

---

水源禪師法話集 18  
(2013年2月11日 東京法話会)

---

2014年9月26日 発行

編集兼発行 一乗会